

おしえてっ

図書館



～わたしたちにとっての図書館って、な～んだろ?～

スタバ併設、私語OKで話題となったツタヤが運営参加する佐賀県・武雄市図書館。ご近所でも、厚木市立中央図書館が(株)有隣堂に業務委託、海老名市も武雄市に次ぐ全国で2番目の「ツタヤ図書館」となります。

市民にとっての図書館とは何なのか? 図書館という公共サービスについて改めて考えてみました。相模原市内には、淵野辺、橋本、相模大野と3つの図書館と相武台分館があります。なかでも南区にある相模大野図書館は、図書館勤務の経験をもつ市民が中心になってできた「認定NPO法人らいぶらいいぶ」が業務を受託。特徴のあるサービスを展開しています。夏休み中の一日、相模大野図書館をのぞいてみたら――。

図書館は、民主主義を育むところ

相模大野図書館3階の入口近く、柱に「図書館の自由に関する宣言」が掲げられているのを知っていますか? (左見出し下の写真がそれ)

●図書館サービスの原則
図書館の自由って知ってる?

今回の図書館取材とその事前調査のなかで知った「宣言」は、図書館で働くひとならどなたもご存知のもの。とはいえ、一般の市民にとっては、耳馴れない「宣言」です。利用者の目にふれやすい企画コーナーの近くにありますが、是非、読んでみてください。

「資料収集の自由」「利用者の秘密を守る」などの「宣言」の内容を実現するため、さらに「図書館員の倫理綱領」が定められているそうです。綱領では、図書館が市民の意見をよく聞くこと、と同時に、社会的情報・資料を知る努力を求めています。※日本図書館協会のHPを参照。

社会的役割を意識して、基本的人権である「知る権利」を実践するサービス機関として図書館を見れば、まさに民主主義を育むところなのです。そこがまちなかの書店やレンタル屋さんとは公立図書館の違いなのです。

逆に、利用者である市民の側も積極的に意見や情報を届けてこそ「私たちの図書館」になると言えるでしょう。

▼図書館メニューの掲示

▼子どもの本のフロア
こちらでもブルーでメニュー表示図書館は
市民のための情報の"とりで"

相模大野図書館は 案内は**ブルー** 注意書きは**グリーン**で
赤いスカーフは、館内ご案内役のコンシェルジュ

●大野図書館ならではの
おもしろ企画いろいろ

●左上は相模原の作家さんコーナー。「100年前」というテーマや「涼くなる怪談特集」などのテーマ企画の書架もあります。

●南区の情報を中心に市の情報コーナーもあるよ。

●毎週水曜日はお子さんの年齢に合わせたおはなし会。ボランティア・グループによる「サタデーおはなし会」もあるよ。

●図書館の入口にあるウェルカム・ボード。図書館員のみんなが日替わりで書き込んでいます。
(左たてなが写真はそのウェルカム・ボードです)

「情報発信の場として行政も活用を」と語る相模大野図書館長岡崎さん



「限られた資料費の中での、選書の難しさを感じています」と、NPO法人らいぶらいいぶ・マネージャーの吉居さん



図書館は、無料で本やCDを借りるところだけではない。入っていたのですが、「図書館の自由」を知ること、情報を集めて整理し、市民に提供するという大きな役割に気づくことができました。

相模大野図書館では、とくに「レファレンス・サービス」に力を入れ、「調べものコーナー」で受け付けてくれています。そこにいる図書館の方は、レファレンス・インタビューをはじめ調べることのプロです。時代は、情報が錯そうし、見分けて整理することがそのまま暮らしの質につながります。情報弱者は、そのまま生活弱者になりかねません。本の検索サービスだけでなく情報を探す手助けをしてくれる図書館は、市民の暮らしにとっても大きな味方だとわかりました。



2014 年度、NPO 法人ここずっとは、さがみはら市民協働ファンド・ゆめの芽の助成を得てワークショップを3回にわたって実施することになりました。

～2014 年 6 月 21 日 主催：NPO 法人ここずっと～

ここでずっと暮らしたい市民のための語り場 円卓ミーティングで語りあってみたら・・・

第2回の円卓では、
出た課題をさらに深めて
語り合えるといいな。若者
にも参加してほしいっ！

円のテーブルを選んだのは、参加者のだれとも平場で語り合いつながり合うことを願って。「円卓の騎士」ならぬ「円卓の市民」です！



【ここずっと】では、日ごろ、まちづくりのために活動されているみなさんを対象に、市民活動の可能性を拓き、つながっていくために、本音で語り合うためのワークショップを企画しました。

- ・市民活動にあたって、どんなことを思っている、感じている？
- ・もっと行政と組んだ活動をするにはどうしたらいいのか？
- ・このまちの市民協働はどうあるべきか？

そんなことを、本音で率直に語り合っ、市民活動の実力アップをはかる機会として呼びかけて開催した第1回の様子を紙上に報告いたします。

なお、このワークショップは3回シリーズとなっており、2回目は11月9日(日)PM1:30～、3回目は2015年2月に開催する予定です。 ※次回案内は4ページを参照ください。

団体でも個人でも、まちづくりを誰かの手によってでなく、「ここでずっと暮らしたい」と願う地域の者が主体となって実現していくための、それは第1歩。まず、みんなの関心はどこに？



地域の教育力

■学校教育と社会教育とあるけど、その連携が大事だよ。

■上鶴間高校とか理解ある。地域ぐるみ巻き込まなきゃ。

■相模原は公民館活動とか社会教育の歴史を持ってる。

■出前授業活動をしているけど、まだまだ、学校のハードルって高いと思うけどネ。

■南大野小に学校コーディネーターがいるようになったから期待できるかも？



●行政は人格のない仕組みにすぎないのでは？だから、市民協働というの、ひとつの仕組み。仕組みであるなら、その構成を理解しなきゃ。理解したうえで、どうすれば協働できるか市民の方が力量を付けていかないとね。

市民協働

●そう、仕組みだとすると、先進的なことはできないよね。社会的価値について判断できないもん。

●たとえば、補助金や助成金で市民力をたくましくしてサ。

●市民と行政と責任の区分けが必要だよ。で、なんといっても受益者は市民、ってことをハッキリさせる。たとえば、ビジネスモデルをつくってみたらどうだろう。

●市民協働が仕組みなら、仕組みそのものを組み替えていくのも方法。市民協働事業の有識者たちの審議を、たとえば、先行させて、それからマッチングをしたらかすれば、担当課が尻込みすることないんじゃない？

地域の病院

◆地域の病院ってホントに財産だよ。

◆地域の病院を拠点にして、利用しよ。



■たとえば、大野から北里病院までとか、ね。ビジネスとして、市民運営できないのかな。

コミュニティ

■まちづくり会議とかで話し合われてるみたいよ。

若者

■夢と希望だよ。

それがあって勇気だろ。

■ねっ、映画館欲しいよね。

■映画館？！ そ、コミュニティー・シアターつくりたい！いいドキュメンタリーや単館でしかやらないような良質の作品を自分たちで上映するの。それもバリアフリーで。音声ガイドや聴覚障害者のための字幕つけて。大野でいい会場をつくり出したい！

■居場所が必要なんだよ、居場所。

高齢者

- 居場所って、高齢者にもほしい。
- ふつうに暮らしている高齢者ほど居場所がないような気がするネ。
- 生きがいを持てて、交流できて。
- 自治会だって、高齢化だよ。

●介護保険はできることが限られているよね～。

●高齢者が高齢者の介護をするっていうか、身近でも同居の家族がいても、介護ができなかったり、ホントにどうしようっていう問題を抱えてる人って、いっぱいいるんだよ。

「江戸しぐさ」を伝える
よりみつ たまえ
依光 玉恵 さん

虹のかけはし Brücke

ここちとも



円卓ミーティングで出会った依光さんは、座間市の公立小学校の教師として30年間勤務。定年を迎えて「江戸しぐさ」を伝える活動を始めた。

ご自分の名前の表札のかかるシェアードオフィス前にて

在職中の2003年、「江戸しぐさ語り部の会」を主宰していた越川禮子氏の講演を聴き、「思いやり」や「心づかい」、「互いに助け合い、共に生きる」ための知恵にあふれた「江戸しぐさ」に感動し、学級づくりに役立ててきた、と依光さん。授業参観でも「江戸しぐさ」を取りあげ、保護者から「子どもたちだけでなく、お母さんたちにも教えてほしい」という声があったのも力となりました。「江戸しぐさ認定講師」の資格を取得、教師としての経験を生かしながらできるだけ多くの人たちに伝えたい——そう思い立ったのでした。

ひとりきりの発意でした。伝えるための講座づくりから始めねばなりません。そこで、まず、<さがまちカレッジ>の講座を受けて講師機会をもらい、「学びのらいぶ塾」で講師になることから始めました。さらに、2014年3月からは<ユニコムプラザさがみはら>のなかのシェアードオフィスに入り、活動を展開することになりました。都内小学校で道徳の公開授業の講師をされたり、6月には早稲田大学でゲスト講師として話したりと、伝える機会も徐々ですが増えてきました。

「しぐさ」はそのまま「思いやり」

依光さんのお話をきくまで「江戸しぐさ」というのは、マナーやエチケットの様式のことと思込んでいました。雨の日に傘をかしげてすれ違いやすくする「傘かしげ」、席をつくるためにこぶしひとつ分を詰めあう「こぶし腰浮かせ」など、身のこなしを学ぶマナー教室のようなものを想像したのです。しかし、「江戸しぐさ」とは、江戸商人たちが地域で商いをつづけていくために、気持ちよく暮らしていくための共生の知恵、さらには生き方をささえる哲学のことだと教えられました。コミュニケーション・スキルのひとつとも言えるでしょう。

依光さんから教えていただいた本を右に紹介します。

講師依頼は mail:tamaeyorimitsu@nifty.com にどうぞ。

11月には講座も開催予定です。(※4ページを参照)



『江戸の繁盛しぐさ』
越川禮子 著
日本経済新聞出版社
定価 667 円 + 税

マナーやエチケット、共生の知恵やつつて「江戸しぐさ」を伝えたい！



新町通りでみつけたっ！ か～わいいマウス?!

相模大野九丁目、新町通りのみどり薬局のとなりにある植木。ちょっと変わった植木だな～と思うこと2年余り。だんだん姿がはっきりしてきたような気がして、思い切つてみどり薬局の奥様にお伺いしてみました。「あら、気づいてくれた？」と笑顔の奥様、ツゲの植木が伸びてきたとき、それが面白い形だったので、いじり始めたと教えてくれました。「ミッキーマウスにしたいけど、なかなかうまくいなくて」とおっしゃる奥様、常々、レジの古切手を利用したおつりトレーやお店のPOPなどセンスを感じておりましたが、通りを行く人たちに、今度は、ちいさな笑みをくださるようです。育っていく姿が楽しみです。

市民による市民のための映画館づくりのために

「映画館がほしい」という声は、これまでの紙上カフェの声でもよく耳にした、まちの希望です。家庭でも簡単に映画視聴のできるようになりましたが、映画館ならではの鑑賞というもあります。『旅する映写機』あるいは『小さな町の小さな映画館』というドキュメンタリー映画をご存知でしょうか？そこに出てくる映画館は、山奥、田んぼのなかにある週1回だけ10人足らずでいっぱいになる上映館、人口1万4千人の町の定員47人の映画館です。映画の力、映画を鑑賞しようとする意味に魅せられる思いです。そこで、このまちに“コミュニティ・シアター”を作りませんかという誘いを申し上げます。定期的に、まちのどこかで単館でしか見られないような名作、ドキュメンタリーの佳作をバリアフリーで上映しようという試みを始めたいと存じます。ついては、ちょっとお願いします。



クリップ・ボード



ここでずっと暮らしたい市民のための語り場

円卓ミーティング

第2回(3回シリーズです)

【とき】2014年11月9日(日)

13:30～16:30 受付開始13:00

【ところ】ユニコムプラザ

さがみはら実習室

【参加費】無料

【申込み】10月25日締切

tel042-745-0676/fax742-0447

【主催】NPO法人ここずっと



今号では、第1回円卓ミーティングで出された課題＝日ごろ気になっている課題を出し合ったことを紙上カフェとして報告させていただきました。まちづくりに関心を持ち、そのために活動されているみなさん、まだまだ、課題は掘り出せるはず。市民活動の可能性を拓き、つながっていくために、本音で語り合うためのワークショップをさらに深めていきましょう。

- ・市民としての提案をどう始めたらいいんだろう？
- ・行政とつながるための市民のつながりってどんなの？
- ・まちづくりにとっての市民協働ってなんだ？

円卓だからその場で本音を語り合っ、市民力を高めていきましょう。発言ある老若男女の皆さん、お集まりください！

※会場設定の関係から、さがみはら市民活動フェスタの日程とかぶる設定となってしまいました。悪しからず、ご理解いただくとともに、調整のほど、お願い申し上げます。

※この事業は、さがみはら市民協働ファンド・ゆめの芽による助成金を得て開催されるものです。

【講座】江戸の知恵を今に活かす

年々、人間関係の難しさを感じている人が増えているようです。このような世相もあってか、いま、江戸の知恵を今に活かす「江戸しぐさ」に共感したり、関心をお寄せくださる方も増えてきました。もし、人間関係に自信がなかったら、「江戸しぐさ」でおつき合いの知恵を学んでみませんか？講師は、3ページで紹介した依光玉恵さんです。

～江戸しぐさに学ぶおつき合いの知恵～

【とき】2014年11月3日(月) 13:00～14:30

【ところ】ユニコムプラザさがみはらセナール

【受講料】500円 【定員】50名(申込み順)

【申込み】10月26日締切 ※FAXがメールにて

fax 042-758-1242 tamaeyorimitsu@nifty.com

【主催】虹のかけはし Brücke 【共催】不ニデザイン

【たいにいい・ぼくす】

相模大野9-6-18-2F



ここずっと市民相談

電話にて随時受付となります。
このまちには頼りになる人いっぱい。
相談窓口 ☎ 042-745-0676

コミュニティ・カフェ『ここdeコミ』

9月21日/10月19日/11月16日

いずれも13:30～15:30

※原則、毎月第3日曜日

どなたでも出入り自由。10月は紅玉ケーキづくり。

ここずたうんは、このまちでずっと暮らしたいと思う人、
思ってもらいたい人のための情報紙となることを目指しています。

NPO 法人ここずっととは、まちづくりに参加し
同じ気持ちの市民や市民グループの中間支援に取り組んでいます。



2作品とも製作・監督・撮影は
森田恵子さんです。

お願い①みたい映画はどんな作品ですか？教えてください。

お願い②上映できる場所をご存知ないですか？提供を含め教えてください。

お願い③バリアフリー上映のための音声ガイドや字幕をつくる手伝いをしてくださる方を募っています。一緒につくってみませんか？

よろしければ、ご協力ください。

Information

■「ここずたうん」は、創刊準備号から南区地域活性化事業交付金をいただいて発行してまいりましたが、今号からは、みなさまから発行協賛金をいただくなかでその発行を継続させていただくことになりました。

■8号は、大野銀座商店街にあるファゴットさんに協賛いただいて発行いたしました。ガラス絵画や写真展など、いつも応援いただいてきました。これからもまちづくりで連携させてください。ありがとうございました。

■発行協賛金は1口千円。個人でも団体でも、また何口でも歓迎です。ぜひ、お寄せください。



Fagotto

お店大賞受賞のお店
イタリア食堂 ファゴット
相模大野6-19-8
☎042-748-0965

『フリー情報紙 ここずたうん』No.8

【発行日】2014年8月25日

【発行者】NPO法人ここずっと

〒252-0303 相模大野9-6-18-2F
ここずたうん編集室



ご意見、投稿、記者志望者は
ここずたうん編集室へ

【TEL】042-745-0676 【FAX】042-742-0447

【E-mail】info@cocozutto.jp